



子どもは未来を生きるもの



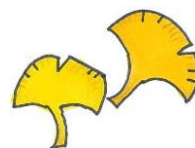
強烈な暑さもようやくやわらぎ、スポーツや読書、学習と、いろいろなことを行うのに適した季節がやってきました。

さて、みなさん、書家であり、詩人でもある相田みつを氏のことは、多くの人が知っておられることと思います。しかし、相田氏が、PTA活動に熱心で、PTA会長を務められたこともあるということを知る人は、おそらくほとんどいないのではないのでしょうか。

私も、ある雑誌に相田氏の長男の一人（かずひと）氏が寄せられている文章で、そのことを初めて知りました。次のような文章です。

「最近偶然に、小学校のPTA会長をしていた頃の父のノートが見つかった。そこには、当時の父が何を考えてPTA活動をしていたのかということが率直に綴られていた。今となっては、父を知るための貴重な資料とも言える。私が、はっとしたのは、あるページにあった三箇条のメモである。

- 1 私たちは未来の社会を予測できない。
- 2 子どもたちは、その未来の社会を生きるものである。
- 3 その時、親の手は届かない。



とあって、だから子どもをどんな社会にも正しく適応し、たくましく生きられるように育てておくことが、親の大事な務めなのだということ。そして、学校教育もPTA活動もその延長線上にあるべきだ、という父の思いが続いていた。」

この文章と重なったのが、教育界の先人である大村はま氏の言葉です。

「子どもを本当にかわいいと言うんでしたら、子どもが一人で生きていく時に、泣くことのないようにしてやりたいと思います。一番大事な時に、泣かずに済むようにしてやりたいと思います。」

相田氏が残したノートの中の記述や大村氏の言葉から、考えさせられたことがあります。まずは、子どもたちにとって身近な大人である教師や保護者が、子どもたちの「人生のよき道標」となるような生き方をその後ろ姿で示すことが、いかに大切であるかということです。子どもたちは、知らず知らずのうちに身近な大人の姿から、様々なことを学んでいます。振り返ってみると、私たちもそうだったのではないのでしょうか。「子は親を映す鏡」という諺もあります。

だから、これから生きていく子どもたちにしっかりと身に付けさせなければならないことは、毅然と指導していくことが身近な大人としての務めではないかと強く感じました。

「子どもは未来を生きるもの」… 改めて、心して子どもたちに関わっていきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆さまも、ご理解の上、ご協力よろしくお願いします。



人権参観日ありがとうございました



人権参観日では、多くの方に授業参観していただき、ありがとうございました。講演会では、落語の中で言葉のかけ方の大切さや、講演でも「AU3S（ありがとう・うれしい・さすが・すごい・素晴らしい）」など、相手がうれしくなる言葉について話していただきました。声のかけ方一つで誰もが変わっていくこと等、たくさんの学びがありました。

社会見学・宿泊体験学習・修学旅行

10月は全学年が社会見学・宿泊体験学習・修学旅行と校外での学習に出かけました。



1年生 岩国城



2年生 錦帯橋



3年生 白壁広場



4年生 大内塗り体験



5年生 野外炊事



6年生 みもすそ川公園

ふれあいまつり(11/9)について～学校での約束～

昨年度同様、授業終了後は飲食も買い物もできるので、学校では以下の様に指導します。

1 金銭について

- ・お金や物のやりとりはしない
- ・財布をなくさない

※バザーで買い物をするために、登校時から財布を持ってくる場合は、担任が財布を預かり職員室で管理します。

2 食べるマナーについて

- ・食べるときは、座って食べる
- ・食べ歩きはしない

3 ゲーム機の使用について

- ・お祭りではゲームはしない

楽しいお祭りになるように、御家庭でも声をかけていただきますようお願いします。